

令和5年度小学校専科（教科担任推進分）加配教員の活動報告書 資料

三島市立長伏小学校

1. 専科授業による学習の定着の成果

専科担当がベテラン教員であることもあり、落ち着いた空気感の中で授業が進められている。4年生から5年生、5年生から6年生へと学習の理解に、積み上げの力が必要となる算数科という教科において、ほとんどの子が課題を把握し、投げ出さず、学習に向かうことができている。

定着を単元テストを用いて、到達度で図ると、5年生が15単元の平均で【知識・技能】71.0【思考・判断】60.6、6年生が12単元の平均で【知識・技能】81.7【思考判断】62.8となった。

6年生の習熟の具合を、毎年1月に実施される定着度テストで昨年度5年次に実施したものと比べると下記のようになった。

定着度テスト（1月実施）	令和4年度（5年次）	令和5年度（6年次）
1組（平均）	64.0	70.6
2組（平均）	62.3	64.0

進級の際には学級編制もあり、問題も異なるため一概には言えないが、学年全体の定着に伸びは見られおり、授業者も手応えを感じているようだ。

GIGAスクール構想で子どもたちのノートも、タブレットが利用されるようになってきている。専科教員は扱いが不慣れな生徒にも丁寧にノート指導を積み重ねると共に、一人一人のタブレットの記載を確認し、日々の授業改善に努めている。

The image shows two pages of handwritten student work on a tablet. The left page contains several problems related to finding the least common multiple (LCM) and adding fractions. For example, it shows the LCM of 4, 7, and 8 is 28, and the sum of 1/4 and 1/7 is 11/28. The right page shows a comparison of average scores for two groups. It lists the highest and lowest scores for Group 1 (58 and 31) and Group 2 (60 and 36). The average for Group 1 is calculated as 45.4, and for Group 2 as 45.1. A conclusion is drawn that Group 2 has a better record.

① 通分のしかたを考えよう。
 $\frac{5}{6}$ と $\frac{7}{8}$ の通分
 $\frac{5}{6} = \frac{5 \times 4}{6 \times 4} = \frac{20}{24}$
 $\frac{7}{8} = \frac{7 \times 3}{8 \times 3} = \frac{21}{24}$

② $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{7}$ で 4 と 7 の最小公倍数は 28
 だから $\frac{1}{4} = \frac{7}{28}$
 $\frac{1}{7} = \frac{4}{28}$ ので $\frac{1}{4} + \frac{1}{7} = \frac{11}{28}$

③ $\frac{1}{3}$ と $\frac{1}{9}$ で 3 と 9 の最小公倍数は 9
 $\frac{1}{3} = \frac{3}{9}$ ので $\frac{1}{3} + \frac{1}{9} = \frac{4}{9}$

④ $\frac{1}{2}$ と $\frac{1}{3}$ の最小公倍数は 6
 $\frac{1}{2} = \frac{3}{6}$
 $\frac{1}{3} = \frac{2}{6}$
 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{5}{6}$

⑤ $(\frac{1}{2} + \frac{1}{3})$ と 4 と 5 の最小公倍数は 60
 $(\frac{1}{2} + \frac{1}{3}) = \frac{5}{6}$
 $\frac{5}{6} = \frac{50}{60}$

⑥ $(\frac{1}{2} + \frac{1}{3})$ と 8 と 6 と 4 の最小公倍数は 24
 $(\frac{1}{2} + \frac{1}{3}) = \frac{5}{6}$
 $\frac{5}{6} = \frac{20}{24}$

⑦ 通分
 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{3}{6} + \frac{2}{6} = \frac{5}{6}$
 $\frac{1}{4} + \frac{1}{6} = \frac{3}{12} + \frac{2}{12} = \frac{5}{12}$
 $\frac{1}{5} + \frac{1}{10} = \frac{2}{10} + \frac{1}{10} = \frac{3}{10}$

⑧ 通分
 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{3}{6} + \frac{2}{6} = \frac{5}{6}$
 $\frac{1}{4} + \frac{1}{6} = \frac{3}{12} + \frac{2}{12} = \frac{5}{12}$
 $\frac{1}{5} + \frac{1}{10} = \frac{2}{10} + \frac{1}{10} = \frac{3}{10}$

⑨ 資料の整理の仕方を考えよう
 ① 6年1組と6年2組ではどちらの記録が良いか
 平均を出す
 合計を出す(人数)

	最高得点	最低得点
1組	58	31
2組	60	36

1組の記録の平均
 合計÷人数
 $= (56+49+\dots+46+48) \div 39$
 $= 1772 \div 39$
 $= 45.43$
 $= 45.4$

2組
 合計÷人数
 $= (55+44+\dots+40+37) \div 40$
 $= 1802 \div 40$
 $= 45.05$
 $= 45.1$

② 平均値(平均) = データの値の合計 ÷ データの個数
 $45.4 > 45.1$
 平均値では1組の方が記録が良い
 これでは2組の方が記録が良い

【6年生タブレット上のノート（タ化ソグ）】

【5年生タブレット上のノート（手書き）】

2. 高学年担任の時間の生み出しと職員の働き方改革における成果

専科教員の配置によって高学年の持ち時数が減少し、負担軽減となった。テスト一枚を比べても、採点に要する時間が多く必要な高学年にとっては貴重な時間の確保となった。担任からは「宿題等提出物の見取りがしやすくなった。」「今まで日中ほとんどできなかった授業研究ができるようになった。」との声が寄せられている。

令和4(2022)年度 持ち時数

学級等	氏名	主な分掌等	週時数		出授業	授業時数	企画委員会	初任研修	持ち時数	備考
			A	B						
1年1組		学年主任	24			24			24	
1年2組			24			24			24	
2年1組			25	3	3	25			25	
2年2組		学年主任	25			25			25	
3年1組		学年主任	26	2.5		23.5			23.5	
3年2組		心づくり指導部長	26	2.5		23.5			23.5	
4年1組			28	4.5		23.5			23.5	
4年2組		学年主任	28	4.5		23.5			23.5	
5年1組		研修主任	28	5		23			23	
5年2組		学年主任	28	5		23			23	
6年1組			28	6		22			22	
6年2組			28	6		22			22	
6年3組		体づくり指導部長	28	6		22			22	
担任外		生徒指導主任								
教務		教務主任								
教頭										
担任外		月2・3・4								

令和5(2023)年度 持ち時数

学年	教科週時数	専科算数音楽出	23調整	入時数	出る時数	持ち時	クラブ	委員会
1-1	23					23	○	○
1-2	23					23	○	○
2-1	24		1	1		23	○	○
2-2	24		1	1		23	○	○
3-1	26		3	2.5		23.5	○	○
3-2	26		3	2.5		23.5	○	○
4-1	27.5		4.5	7.5		20	○	○
4-2	27.5		4.5	7.5		20	○	○
5-1	28	5	-1.5	2		19.5	○	○
5-2	28	5	3	6		20	○	○
6-1	28	5	-1.5	2		19.5	○	○
6-2	28	5		3.5		19.5	○	○
		20		17	35.5	0	0	0
専科算数		20	この裏は5、6年の先生があきになっていないとダメ				○(園芸)	○(園芸)
フリー				17				
教頭				2				
教務				16.5				
小計	0	20		35.5	0	0	0	

また、学年間の教科の入れ替えもスムーズになった。担任外が複数学年に入り、得手不得手問わず何教科も抱えたりしなくてはならない状況がかなり改善された。担当教科が絞られることで、高学年の教員のみならず、担任外の教員の教材研究にも余裕を生み出すことができた。

月別統計 (2022年度)

表示するデータ 退勤時刻平均 ◀ 前半(4~9月) ▶ 後半(10~3月)

退勤時刻平均

組織名	4月	5月	6月	7月	8月	9月
14 長伏小学校	17:59	17:48	17:38	17:12	16:04	17:38

月別統計 (2023年度)

表示するデータ 退勤時刻平均 ◀ 前半(4~9月) ▶ 後半(10~3月)

退勤時刻平均

組織名	4月	5月	6月	7月	8月	9月
14 長伏小学校	17:32	17:17	17:08	16:59	15:54	17:10

上の表は、本年度と昨年度の全職員の退勤時刻の平均の比較である。10月以降も昨年度より、退勤時間は早まっている。専科教員の配置により、時間割を柔軟にマネジメントすることで、職員の日中の時間的ゆとりを生み出した成果とみられる。